



2023年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年4月27日

上場会社名 山崎製パン株式会社
 コード番号 2212 URL <https://www.yamazakipan.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 飯島 延浩
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 会田 正久
 四半期報告書提出予定日 2023年5月12日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 03-3864-3110

(百万円未満切捨て)

1. 2023年12月期第1四半期の連結業績(2023年1月1日～2023年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第1四半期	276,839	6.6	9,335	34.4	9,669	26.3	5,483	39.9
2022年12月期第1四半期	259,727	—	6,945	18.2	7,653	19.1	3,920	28.3

(注) 包括利益 2023年12月期第1四半期 3,695百万円 (△56.4%) 2022年12月期第1四半期 8,473百万円 (6.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第1四半期	26.45	—
2022年12月期第1四半期	18.60	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を2022年12月期の期首から適用しております。
 このため、当該基準を適用する前の2021年12月期第1四半期連結累計期間の売上高に対する対前年同四半期増減率は記載しておりません。
 なお、2021年12月期第1四半期連結累計期間と同様の基準で算出した2022年12月期第1四半期連結累計期間の売上高の増減率は6.7%増であります。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第1四半期	738,280	—	402,303	—	—	48.5
2022年12月期	758,031	—	407,897	—	—	48.0

(参考) 自己資本 2023年12月期第1四半期 358,300百万円 2022年12月期 363,738百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期	—	—	—	22.00	22.00
2023年12月期	—	—	—	—	—
2023年12月期(予想)	—	—	—	22.00	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年12月期の連結業績予想(2023年1月1日～2023年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	550,000	4.1	15,200	5.7	17,500	2.3	9,200	2.0	44.38
通期	1,108,000	2.9	27,000	22.5	31,000	18.6	15,000	21.3	72.36

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年12月期1Q	220,282,860 株	2022年12月期	220,282,860 株
② 期末自己株式数	2023年12月期1Q	14,328,117 株	2022年12月期	11,647,754 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年12月期1Q	207,294,925 株	2022年12月期1Q	210,735,394 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○ 添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結損益計算書関係)	9
(セグメント情報等)	10
3. 補足情報	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2023年1月1日～2023年3月31日)におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの影響による行動制限が緩和され、個人消費は緩やかに持ち直してまいりましたが、物価上昇の影響もあり力強さを欠きました。

当業界におきましては、お客様の節約志向が強まり消費が伸び悩む中で、主原料の小麦粉や油脂などの原材料価格の上昇に加え、卵の供給逼迫による価格高騰やエネルギーコストの増加もあり厳しい経営環境となりました。また、コンビニエンスストアやフレッシュベーカーリーの小売事業につきましては、人流の回復に伴い、おにぎりやサンドイッチ、焼き立てパンなどの需要が徐々に回復してまいりましたが、光熱費の上昇により店舗コストが増加するなど厳しい経営環境となりました。

このような情勢下にあります、当社グループは、緊急事態においてパン、和菓子、洋菓子類を緊急食糧として社会に提供するという新しいヤマザキの精神に従い、新型コロナウイルス感染拡大の中で製品の安定供給を確保するため、全従業員に対して検温を実施し、37.2℃以上の発熱がある者、また発熱がない場合でも新型コロナウイルス独特の自覚症状がある者を自宅待機とし、この自宅待機者数とPCR検査陽性者数を日々管理しました。また、マスク着用の継続や手指の消毒など日常の感染防止対策を徹底するとともに、5人以上の会食の原則禁止や感染の恐れの高い遊興施設の利用禁止など、公衆衛生上の遵守事項を徹底しました。さらに、職場の感染防止対策を徹底し、炭酸ガス濃度測定器によって、常時職場内の換気をしながら炭酸ガス濃度を700ppm以下に保つなど、社会的使命の達成に全力を挙げて取り組んでまいりました。

また、新型コロナウイルス感染防止対策の上に行う業績向上対策として、「いのちの道」の教えに従う、営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、主力製品の品質向上をはかるとともに、変化するお客様のニーズに対応した2極化・3極化戦略によって低価格帯製品や値頃感のある製品の品揃えを充実し、女性製品開発担当者を活用した高付加価値製品の開発に取り組むなど隙のない製品対応を推進したことにより、業績は菓子パン部門を中心に好調に推移しました。

デイリーヤマザキやヴィ・ド・フランスなど小売事業につきましては、小売事業業績改善プロジェクトにより日次管理・週次管理の経営手法を徹底し、日々の仕事の精度向上につとめるとともに、小売事業本部内の戦略製品・戦略商品開発推進チームと連携し、ヤマザキの技術を最大限活用した、競争力のある商品開発を推進するなど業績回復をめざしました。

当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は2,768億39百万円(対前年同期比106.6%)、営業利益は93億35百万円(対前年同期比134.4%)、経常利益は96億69百万円(対前年同期比126.3%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は54億83百万円(対前年同期比139.9%)となり、山崎製パン(株)単体の菓子パンが好調に推移したことに加え、一部の連結子会社の業績が改善したこともあり、増収増益となりました。

セグメント別の状況

<食品事業>

食品事業の主要製品別の売上状況は次のとおりであります。

①食パン部門(売上高253億27百万円、対前年同期比103.7%)

食パンは、主力の「ロイヤルブレッド」が好調に推移し、「モーニングスター」や「スイートブレッド」などの低価格帯食パンが大きく伸長するとともに、サンドイッチ用食パンの回復もあり、前年同期の売上を上回りました。

②菓子パン部門(売上高1,017億16百万円、対前年同期比108.8%)

菓子パンは、主力のコッペパンやヤマザキ菓子パンシリーズが伸長し、複数個入りの「ベイクワン」シリーズが堅調に推移するとともに、本年1月に規格の見直しをはかった薄皮シリーズが好調に推移し、生クリーム入りの生地とフィリングを使用した新製品「生ドーナツ」シリーズが寄与するなど、前年同期の売上を大きく上回りました。

③和菓子部門(売上高184億10百万円、対前年同期比101.2%)

和菓子は、主力の串団子や大福が伸長するとともに、値頃感のある複数個入りの饅頭が寄与し、ホットケーキも堅調に推移するなど、前年同期の売上を上回りました。

④洋菓子部門（売上高384億73百万円、対前年同期比105.3%）

洋菓子は、主力の「2個入り生ケーキ」や「プレミアムスイーツ」シリーズが好調に推移するとともに、コンビニエンスストアチェーン対応製品が伸長し、前年同期の売上を上回りました。

⑤調理パン・米飯類部門（売上高347億18百万円、対前年同期比107.2%）

調理パン・米飯類は、おにぎりが伸長するとともに、サンドイッチや調理麺が好調に推移し、前年同期の売上を上回りました。

⑥製菓・米菓・その他商品類部門（売上高395億26百万円、対前年同期比106.7%）

製菓・米菓・その他商品類は、(株)東ハトの「ポテコ」が伸長するとともに、(株)不二家の「ホームパイ チョコだらけ」が好調に推移し、前年同期の売上を上回りました。

以上の結果、食品事業の売上高は2,581億72百万円（対前年同期比106.6%）、営業利益は92億51百万円（対前年同期比129.4%）となりました。

<流通事業>

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、戦略製品・戦略商品開発推進チームと連携して、「ランチパック 大盛り」シリーズやデイリーホット商品など、ヤマザキの技術を最大限に活用した競争力のある商品開発を推進しました。また、松戸・杉並ドミナントプロジェクトによりデイリーホットの収益改善に取り組むとともに、既存店舗の改装を行い、ヤマザキらしいお店づくりと個店毎の売上・収益の向上に取り組みました。当第1四半期は、チェーン全店売上高は前年同期を上回るとともに、営業総収入は直営店舗数の増加もあり増収となりました。

以上の結果、流通事業の売上高は153億97百万円（対前年同期比105.9%）、営業損失は7億50百万円（前年同期は9億80百万円の営業損失）となりました。

<その他事業>

その他事業につきましては、売上高は32億69百万円（対前年同期比106.6%）、営業利益は6億86百万円（対前年同期比106.2%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は7,382億80百万円で、前連結会計年度末に対して197億50百万円減少しました。流動資産は2,686億98百万円で、売掛金の減少等により、前連結会計年度末に対して226億22百万円減少しました。固定資産は4,695億82百万円で、投資有価証券の増加等により、前連結会計年度末に対して28億72百万円増加しました。負債合計は3,359億77百万円で、支払手形及び買掛金等の支払債務の減少や借入金の返済により、前連結会計年度末に対して141億56百万円減少しました。純資産は4,023億3百万円で、自己株式の取得等により、前連結会計年度末に対して55億93百万円減少しました。

この結果、自己資本比率は48.5%となりました。

(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しといたしましては、わが国経済は、政府によるウィズコロナ政策の下で持ち直していくことが期待されますが、物価上昇が続くお客様の節約志向が一層強まる中で、本年4月期の輸入小麦の政府売渡価格の引上げや卵、油脂などの原材料価格の上昇に加え、人件費やエネルギーコストの増加が見込まれており、厳しい経営環境になるものと思われま

す。このような状況下にあります。当社グループは、引き続き「いのちの道」の教えに従った、営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、各部門毎に、ヤマザキ独自の技術を活用した品質向上や新製品開発に取り組み、変化するお客様のニーズに対応した2極化・3極化戦略によって価格帯毎に隙のない製品対応をはかり、業績向上をめざしてまいります。また、主原料の小麦粉を中心とした原材料価格の上昇に対しましては、当社は、本年7月1日出荷分から、一部の食パン、菓子パンの価格改定を実施するとともに、2極化・3極化戦略による新製品開発に取り組んでまいります。

当社は、本年3月31日付で、(株)神戸屋から包装パン事業の子会社(株)YKベーキングカンパニーの発行済株式全部を譲り受け、当社の100%子会社といたしました。当期の連結業績に与える影響につきましては、現在精査中ではありますが、ヤマザキの技術を最大限活用した品質向上と新製品開発に取り組み、早期に軌道に乗せるよう全社を挙げて努力してまいります。

今後、当社グループ一丸となって内部管理体制の充実と業務の効率化をはかり、新しい価値と新しい需要を創造して所期の目標達成をめざし努力してまいります。なお、2023年2月14日付にて公表した第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	125,184	123,167
受取手形	184	172
売掛金	123,520	102,409
商品及び製品	13,254	14,059
仕掛品	922	1,164
原材料及び貯蔵品	13,952	14,277
その他	14,690	13,805
貸倒引当金	△388	△357
流動資産合計	291,321	268,698
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	416,940	416,703
減価償却累計額	△304,580	△305,593
建物及び構築物(純額)	112,360	111,109
機械装置及び運搬具	557,718	558,097
減価償却累計額	△469,382	△472,088
機械装置及び運搬具(純額)	88,336	86,008
工具、器具及び備品	40,826	40,947
減価償却累計額	△33,197	△33,347
工具、器具及び備品(純額)	7,628	7,599
土地	114,813	114,824
リース資産	19,872	19,279
減価償却累計額	△12,933	△12,413
リース資産(純額)	6,939	6,866
建設仮勘定	2,307	2,358
有形固定資産合計	332,385	328,766
無形固定資産		
のれん	10,518	9,639
その他	12,847	12,919
無形固定資産合計	23,365	22,558
投資その他の資産		
投資有価証券	65,876	72,286
長期貸付金	812	2,793
退職給付に係る資産	490	472
繰延税金資産	16,129	15,714
その他	29,866	29,214
貸倒引当金	△2,217	△2,224
投資その他の資産合計	110,958	118,257
固定資産合計	466,709	469,582
資産合計	758,031	738,280

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	83,496	78,193
短期借入金	55,795	55,724
リース債務	3,159	3,123
未払法人税等	6,273	4,263
未払費用	39,079	34,907
賞与引当金	5,186	14,307
店舗閉鎖損失引当金	47	46
資産除去債務	29	35
その他	44,272	35,848
流動負債合計	237,341	226,451
固定負債		
長期借入金	22,779	20,435
リース債務	4,476	4,281
役員退職慰労引当金	4,795	4,885
債務保証損失引当金	33	33
退職給付に係る負債	68,598	68,124
資産除去債務	4,977	4,903
その他	7,131	6,860
固定負債合計	112,791	109,525
負債合計	350,133	335,977
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,014	11,014
資本剰余金	9,632	9,632
利益剰余金	317,816	318,709
自己株式	△21,891	△26,184
株主資本合計	316,572	313,171
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	27,838	27,592
繰延ヘッジ損益	△14	△8
土地再評価差額金	99	99
為替換算調整勘定	5,635	3,918
退職給付に係る調整累計額	13,607	13,527
その他の包括利益累計額合計	47,166	45,129
非支配株主持分	44,158	44,002
純資産合計	407,897	402,303
負債純資産合計	758,031	738,280

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2022年1月1日 至2022年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2023年1月1日 至2023年3月31日)
売上高	259,727	276,839
売上原価	173,266	186,137
売上総利益	86,461	90,701
販売費及び一般管理費	79,515	81,365
営業利益	6,945	9,335
営業外収益		
受取利息	38	41
受取配当金	51	75
固定資産賃貸収入	244	244
持分法による投資利益	130	82
為替差益	386	68
雑収入	244	296
営業外収益合計	1,094	808
営業外費用		
支払利息	185	174
固定資産賃貸費用	82	76
災害による損失	1	126
雑損失	117	97
営業外費用合計	386	475
経常利益	7,653	9,669
特別利益		
固定資産売却益	26	28
関係会社株式売却益	—	76
助成金収入	※1 162	—
その他	13	36
特別利益合計	202	141
特別損失		
固定資産除売却損	185	203
減損損失	146	49
その他	113	127
特別損失合計	445	380
税金等調整前四半期純利益	7,410	9,429
法人税等	2,881	3,428
四半期純利益	4,528	6,001
非支配株主に帰属する四半期純利益	608	518
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,920	5,483

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)
四半期純利益	4,528	6,001
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,378	△243
為替換算調整勘定	1,063	△1,989
退職給付に係る調整額	524	△86
持分法適用会社に対する持分相当額	△20	13
その他の包括利益合計	3,944	△2,305
四半期包括利益	8,473	3,695
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,377	3,446
非支配株主に係る四半期包括利益	1,096	249

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2023年2月24日開催の取締役会決議に基づき、自己株式2,680,300株の取得を行っております。この結果等により、当第1四半期連結累計期間において、自己株式が4,293百万円増加し、当第1四半期連結会計期間末において自己株式が26,184百万円となっております。

(四半期連結損益計算書関係)

※1 助成金収入

前第1四半期連結累計期間において、新型コロナウイルス感染症に伴う政府によるまん延防止等重点措置等や各自治体からの営業時間短縮要請に応じたフレッシュベーカリー等、海外を含む小売事業において営業時間の短縮等を実施いたしました。

当該営業時間短縮等による協力金等は、「助成金収入」として特別利益に計上しております。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自2022年1月1日至2022年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額(注)2
	食品事業	流通事業	その他 事業	計		
売上高						
食パン	24,424	—	—	24,424	—	24,424
菓子パン	93,503	—	—	93,503	—	93,503
和菓子	18,189	—	—	18,189	—	18,189
洋菓子	36,552	—	—	36,552	—	36,552
調理パン・米飯類	32,392	—	—	32,392	—	32,392
製菓・米菓・その他商品類	37,054	—	—	37,054	—	37,054
その他	—	14,542	3,023	17,565	—	17,565
顧客との契約から生じる収益	242,117	14,542	3,023	259,682	—	259,682
その他の収益	—	—	44	44	—	44
外部顧客への売上高	242,117	14,542	3,067	259,727	—	259,727
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,032	2,500	9,124	13,656	△13,656	—
計	244,149	17,042	12,192	273,384	△13,656	259,727
セグメント利益又は損失(△)	7,149	△980	646	6,815	130	6,945

(注)1 セグメント利益又は損失の調整額130百万円は、セグメント間取引の消去であります。

2 セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自2023年1月1日至2023年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額(注)2
	食品事業	流通事業	その他 事業	計		
売上高						
食パン	25,327	—	—	25,327	—	25,327
菓子パン	101,716	—	—	101,716	—	101,716
和菓子	18,410	—	—	18,410	—	18,410
洋菓子	38,473	—	—	38,473	—	38,473
調理パン・米飯類	34,718	—	—	34,718	—	34,718
製菓・米菓・その他商品類	39,526	—	—	39,526	—	39,526
その他	—	15,397	3,228	18,625	—	18,625
顧客との契約から生じる収益	258,172	15,397	3,228	276,798	—	276,798
その他の収益	—	—	41	41	—	41
外部顧客への売上高	258,172	15,397	3,269	276,839	—	276,839
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,759	2,192	9,151	14,103	△14,103	—
計	260,932	17,589	12,421	290,943	△14,103	276,839
セグメント利益又は損失(△)	9,251	△750	686	9,187	148	9,335

(注)1 セグメント利益又は損失の調整額148百万円は、セグメント間取引の消去であります。

2 セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 補足情報

(1) 連結販売実績

(単位: 百万円)

セグメント名称	区 分	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)		当第1四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)		比 較 増 減	
		金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	金 額	前年同期比
食品事業	食 パ ン	24,424	9.4%	25,327	9.1%	902	103.7%
	菓 子 パ ン	93,503	36.0	101,716	36.7	8,213	108.8
	和 菓 子	18,189	7.0	18,410	6.7	220	101.2
	洋 菓 子	36,552	14.1	38,473	13.9	1,921	105.3
	調理パン・米飯類	32,392	12.5	34,718	12.5	2,326	107.2
	製菓・米菓・その他商品類	37,054	14.2	39,526	14.3	2,471	106.7
	食 品 事 業 計	242,117	93.2	258,172	93.2	16,055	106.6
	流 通 事 業	14,542	5.6	15,397	5.6	854	105.9
	そ の 他 事 業	3,067	1.2	3,269	1.2	201	106.6
	合 計	259,727	100.0	276,839	100.0	17,112	106.6

(2) 主要子会社実績

(単位: 百万円)

	売 上 高				営 業 利 益			
	前第1四半期	当第1四半期	増 減 額	増 減 率	前第1四半期	当第1四半期	増 減 額	増 減 率
(株)不二家(連結)	24,533	25,715	1,182	4.8%	1,333	953	△ 379	△ 28.5%
(株)サンデリカ	22,778	24,162	1,383	6.1	26	107	81	306.7
ヤマザキビスケット(株)	7,057	7,027	△ 30	△ 0.4	181	134	△ 46	△ 25.8
(株)東ハト	6,236	6,920	683	11.0	242	448	205	84.7
(株)ヴィ・ド・フランス	6,252	6,807	555	8.9	△ 414	△ 44	369	—

(3)2023年12月期第1四半期の単体業績 (2023年1月1日~2023年3月31日)

①単体経営成績

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第1四半期	200,270	6.2	7,158	42.2	8,140	22.6	5,600	20.7
2022年12月期第1四半期	188,496	—	5,034	0.5	6,641	10.5	4,639	15.2

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を2022年12月期の期首から適用しております。

このため、当該基準を適用する前の2021年12月期第1四半期累計期間の売上高に対する対前年同四半期増減率は記載しておりません。

なお、2021年12月期第1四半期累計期間と同様の基準で算出した2022年12月期第1四半期累計期間の売上高の増減率は3.0%増であります。

②単体財政状態

	総資産		純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円
2023年12月期第1四半期	539,468	297,711		
2022年12月期	549,583	301,239		

(注) 単体業績数値は、四半期財務諸表等規則に基づいて作成しておりますが、法定開示におけるレビュー対象ではありません。

(4)単体販売実績

(単位:百万円)

期別	前第1四半期 (自2022年1月1日 至2022年3月31日)		当第1四半期 (自2023年1月1日 至2023年3月31日)		比較増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	前年同期比
品種別						
食パン	23,785	12.6%	24,447	12.2%	662	102.8%
菓子パン	84,783	45.0	91,627	45.8	6,843	108.1
和菓子	18,186	9.6	18,399	9.2	213	101.2
洋菓子	27,675	14.7	29,078	14.5	1,402	105.1
調理パン・米飯類	12,052	6.4	13,192	6.6	1,140	109.5
製菓・米菓・その他商品類	10,252	5.4	11,298	5.6	1,045	110.2
小計	176,736	93.7	188,045	93.9	11,308	106.4
デイリーヤマザキ事業	15,205	8.1	16,223	8.1	1,017	106.7
内部消去	△ 3,445	△ 1.8	△ 3,997	△ 2.0	△ 552	—
合計	188,496	100.0	200,270	100.0	11,773	106.2

(5)単体営業利益増減の内訳

(単位:百万円)

	2022年 第1四半期		2023年 第1四半期		増減額	増減率 (%)
	金額	%	金額	%		
営業利益						
山崎製パン(デイリーヤマザキ事業を除く)	5,977	3.4	7,881	4.2	1,904	31.9
デイリーヤマザキ事業	△ 943	△ 6.2	△ 723	△ 4.5	220	—
合計	5,034	2.7	7,158	3.6	2,124	42.2

<山崎製パン(デイリーヤマザキ事業を除く)増減内訳>

(単位:百万円)

	2022年 第1四半期		2023年 第1四半期		増減額	増減率 (%)	営業利益増減要因
	金額	%	金額	%			
売上総利益	55,611	31.5	58,420	31.1	2,809	5.1	売上高の増加 5,075 原材料費の増加 ▲ 1,796 製造労務費の減少 417 製造経費の増加 ▲ 1,227 製造償却費の減少 117 その他 223
販売費及び一般管理費	49,634	28.1	50,539	26.9	904	1.8	人件費の減少 56 経費の増加 ▲ 962 償却費の減少 2

(注)「営業利益増減要因」欄で▲は営業利益のマイナス影響を表しています。

「%」欄は山崎製パン(デイリーヤマザキ事業を除く)の売上高に対する比率を記載しています。